

**令和 6 年度**  
**『三鷹市地域福祉コーディネーターによる共助支援事業』**  
**事業報告書**



社会福祉  
法  
人

三鷹市社会福祉協議会

# 目次

<b>1 事業概要 .....</b>	<b>1</b>
<b>2 相談実績 .....</b>	<b>2</b>
(1) 対応実績内訳 .....	2
(2) 対応者内訳 .....	3
(3) 対応方法内訳 .....	5
(4) 支援対象者内訳 .....	6
(5) 相談内容内訳 .....	7
(6) 対応内訳 .....	9
<b>3 対応事例 .....</b>	<b>10</b>
<b>4 会議体等への参加 .....</b>	<b>12</b>
<b>5 研修体制 .....</b>	<b>13</b>
<b>6 広報 .....</b>	<b>13</b>
<b>7 まとめ .....</b>	<b>14</b>

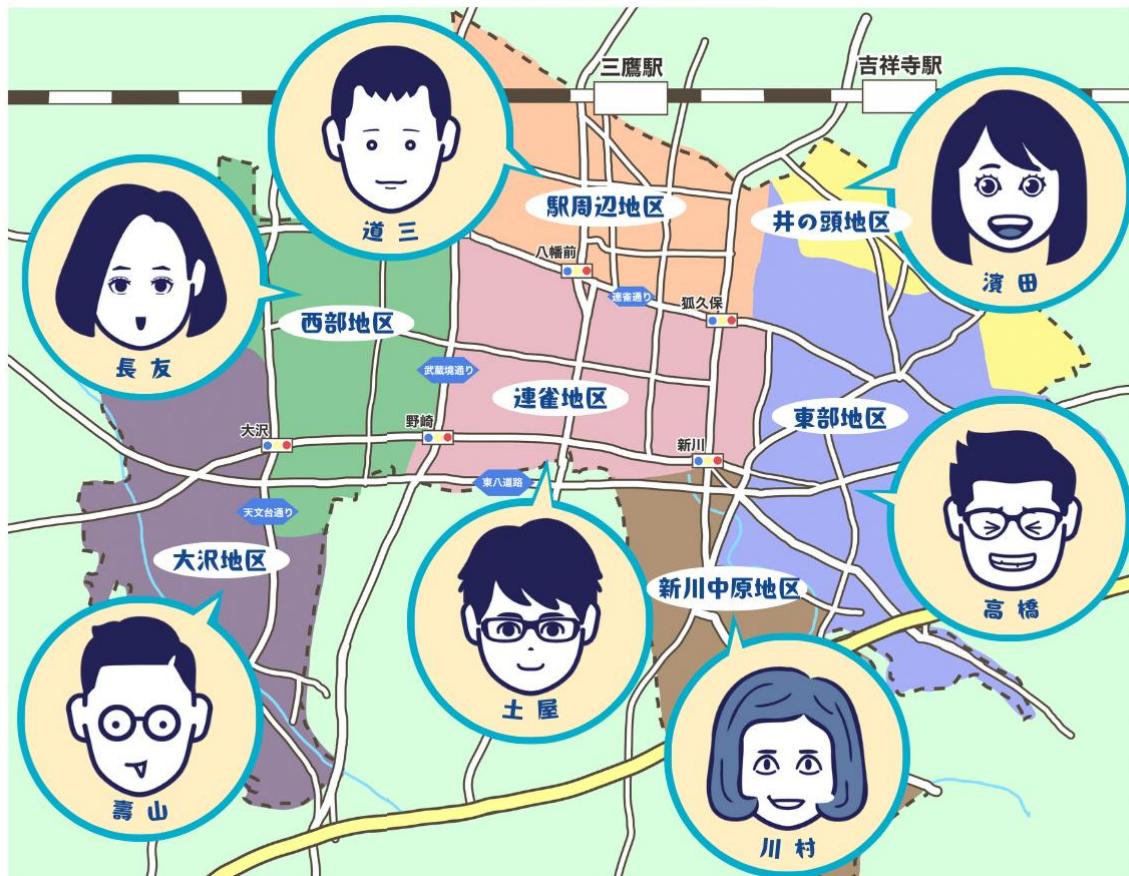
## 1 事業概要

令和2年4月に「三鷹市地域福祉コーディネーターによる共助支援事業」が始まり、大沢地区に1名の地域福祉コーディネーターを配置し、令和3年4月には連雀地区に1名、令和5年4月に東部地区に1名、令和6年1月には更にもう1名を配置し、4名体制になったところで市内全域の相談対応を開始しました。そして、令和6年4月に3名を配置し7名体制となり、各地区に1名の地域福祉コーディネーターの配置が完了し、各地区の相談を地区担当の地域福祉コーディネーターが対応しています。

「三鷹市地域福祉コーディネーターによる共助支援事業」では、現行の制度や公的なサービスでは対応できない制度の狭間にある課題や、高齢・障がい・生活困窮・子育てなど多分野にまたがる複合的な課題についてワンストップで受け止め、課題を抱える世帯に継続的に寄り添い伴走しながら支援を行い、様々な関係機関・団体と連携して課題の解決に取り組みました。

また、個人が抱える課題を地域の課題として捉え、その課題について地域住民に“我が事”として一緒に考えてもらい、課題解決に向けた取り組みに参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に取り組みました。

なお、地域福祉コーディネーターは三鷹市上連雀分庁舎内にあるみたかボランティアセンターの事務所に席を置き、必要に応じて相談者の自宅へアウトリーチ（訪問）するなどして相談に対応しています。



## 2 相談実績

### (1) 対応実績内訳

	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計	前年度	増減
新規相談	46	70	81	99	76	72	49	493	319	174
ケース対応	427	351	707	625	811	657	156	3,734	2,395	1,339
啓発	42	26	24	84	93	69	64	402	267	135
研修	9	5	14	4	22	29	9	92	47	45
会議体参加	72	103	113	74	108	116	83	669	408	261
打合せ	13	29	68	24	42	82	17	275	274	1
その他	118	149	671	149	359	211	121	1,778	1,105	673
合計	727	733	1,678	1,059	1,511	1,236	499	7,443	4,815	2,628

地域福祉コーディネーターが市民等から新規で相談を受けた「新規相談」は、全地区に地域福祉コーディネーターを配置したこともあり、493件と令和5年度の319件から174件の増加となりました。新相談件数を平均すると1地区約70件で、月平均では1地区約6件となります。地区によって件数のバラつきはありますが、人口の多い連雀地区、新川中原地区、三鷹駅周辺地区の件数が多い傾向にあります。

また、市民の自宅に近い身近な場所で地域福祉コーディネーターに相談できる機会として、各地区で毎月1回コミュニティ・センターを会場に相談会を開催し、全地区合計で63件の相談がありました（下記の表参照）。

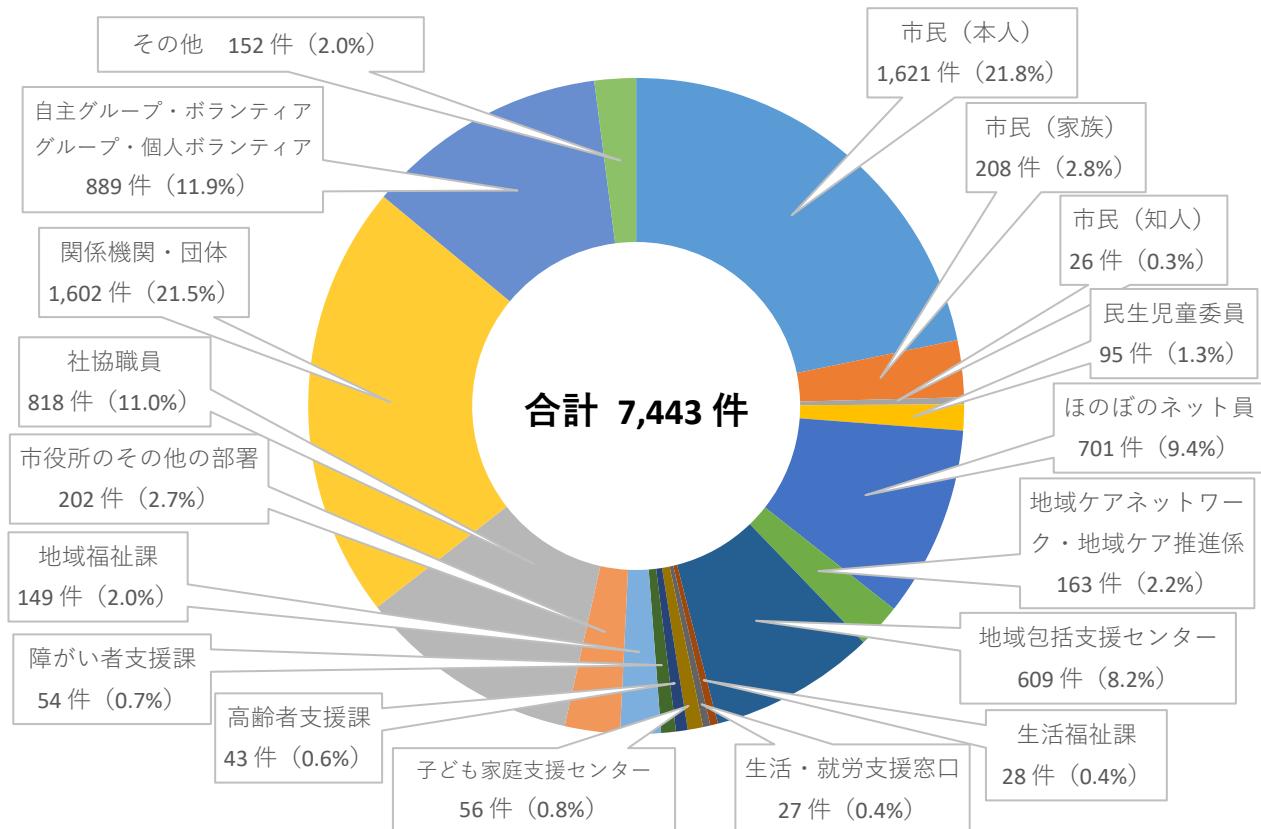
課題の解決に向けた支援を行う「ケース対応」は、3,734回と令和5年度の2,395回から1,339回増加しており、令和6年度以前から継続的に支援しているケースの対応も含まれるため件数が増えています。

#### 【相談会での相談件数】

	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計
4月	2	0	1	0	1	0	2(1)	6
5月	2	1	1	0	2	1	1	8
6月	2	0	0	1	0	2	1	6
7月	2	0	0	1	0	1	2(1)	6
8月	2	1	0	中止	0	2	1	6
9月	3	1	0	1	0	1	1	7
10月	3	1	2	1	0	0	0	7
11月	4	1	0	0	0	0	2(1)	7
12月	1	0	0	0	0	1	1	3
1月	1	0	0	0	0	0	0	1
2月	1	0	1	0	1	0	0	3
3月	0	3	0	中止	0	0	0	3
合計	23	8	5	4	4	8	11(3)	63

\*大沢地区の( )はコミュニティ・センターとは別に地区公会堂や集会所で開催した相談会の内件数。

## (2) 対応者内訳



	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計	前年度	増減
市民（本人）	255	169	337	149	316	277	118	<b>1,621</b>	854	767
市民（家族）	5	55	80	13	27	28	0	<b>208</b>	248	-40
市民（知人）	5	9	3	0	7	2	0	<b>26</b>	52	-26
民生児童委員	24	13	15	0	19	23	1	<b>95</b>	33	62
ほのぼのネット員	53	49	79	128	159	161	72	<b>701</b>	432	269
地域ケアネットワーク・地域ケア推進係	30	17	38	30	26	4	18	<b>163</b>	100	63
地域包括支援センター	65	59	161	52	100	145	27	<b>609</b>	368	241
生活福祉課	0	2	8	4	4	10	0	<b>28</b>	26	2
生活・就労支援窓口	11	1	10	0	0	3	2	<b>27</b>	40	-13
子ども家庭支援センター	38	0	13	1	2	2	0	<b>56</b>	16	40
高齢者支援課	0	4	12	4	14	9	0	<b>43</b>	57	-14
障がい者支援課	1	6	27	1	14	5	0	<b>54</b>	40	14
地域福祉課	2	2	25	1	95	19	5	<b>149</b>	149	0
市役所その他の部署	5	27	87	26	43	13	1	<b>202</b>	96	106
社協職員	57	87	93	113	200	192	76	<b>818</b>	559	259
関係機関・団体	79	169	376	382	323	143	130	<b>1,602</b>	1,136	466
自主グループ・ボランティア グループ・個人ボランティア	83	52	312	119	106	176	41	<b>889</b>	573	316
その他	14	12	2	36	56	24	8	<b>152</b>	36	116
<b>合計</b>	<b>727</b>	<b>733</b>	<b>1,678</b>	<b>1,059</b>	<b>1,511</b>	<b>1,236</b>	<b>499</b>	<b>7,443</b>	<b>4,815</b>	<b>2,628</b>

地域福祉コーディネーターの対応相手として一番多かったのが「市民（本人）」の1,621件（21.8%）で、二番目が「関係機関・団体」の1,602件（21.5%）でした。令和5年度は一番目が「関係機関・団体」の1,136件（23.6%）、二番目が「市民（本人）」の854件（17.7%）だったので、令和6年度は一番目と二番目が入れ替わる結果となりました。

一番目の「市民（本人）」は1,621件と令和5年度の854件の倍近い767件の増加となっています。広報・周知活動の効果もあり課題を抱えている市民本人から直接相談を受けたり、家族や支援者から相談を受けた後、本人と会って状況を確認したり連絡する機会の他、認知症や精神障がい、メンタルに不調のある方を継続的に支援しているケースが増えており、不安などから定期的に複数回連絡が寄せられることもあります。

二番目の「関係機関・団体」は1,602件と令和5年度の1,136件より466件の増加となりました。課題を解決するにあたっては市役所の各部署や地域包括支援センター以外の関係機関と連携して対応する機会は多く、具体的にはケアマネジャーや相談支援専門員、施設の相談員、病院のソーシャルワーカー、高齢者支援や障がい者支援、子育て支援等を実施している社会福祉法人やNPO法人、株式会社などの事業所、警察や保健所、学校、町会・自治会など様々な機関・団体が含まれています。また、他地区の社協の地域福祉コーディネーターも「関係機関・団体」に含んでおり、市外に居住している方の支援でその地区の社協の地域福祉コーディネーターへつなぐケースが増えています。

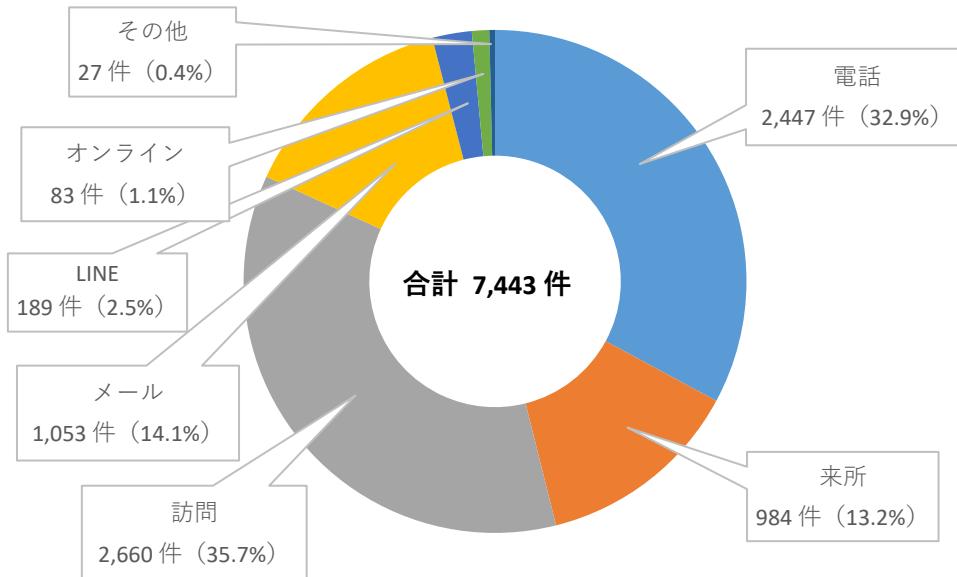
三番目以下は令和5年度と変わらず、「自主グループ・ボランティアグループ・個人ボランティア」、「社協職員」、「ほのぼのネット員」の順番となりました。

三番目の「自主グループ・ボランティアグループ・個人ボランティア」は889件（11.9%）で、令和5年度の573件（11.6%）より316件の増加となりました。課題の解決に向けては公的な制度やサービスだけでは難しい場合が多くあり、ボランティアグループや家族会、個人ボランティアなど、さまざまなインフォーマルなサービスを活用しながら取り組む必要があり、場合によっては新しいグループを立ち上げる支援も行いました。

四番目の「社協職員」は818件（11.0%）で、令和5年度の559件（11.6%）より259件の増加となりました。特に成年後見制度の利用支援等を行っている権利擁護センターや低所得者世帯への経済的な支援を行う生活福祉資金等の貸付担当職員が相談を受けたケースについて、地域での日常的な見守りや支援が必要で地域福祉コーディネーターに相談が寄せられるケースが増えています。

五番目の「ほのぼのネット員」は701件（9.4%）で、令和5年度の432件（9.0%）より432件の増加となりました。市内28地区で見守り活動や支え合い活動を行っているほのぼのネット員は、支援が必要な方の発見や日常生活の中での見守り、声かけ、ちょっとした困りごとのお手伝いなどをお願いしたりと、地域福祉コーディネーターには欠かせない存在となっており、地域福祉コーディネーターが全地区に配置された令和6年度は、ほのぼのネット員に地域福祉コーディネーターの取り組みを理解してもらえるよう、積極的に周知を行いました。

### (3) 対応方法内訳



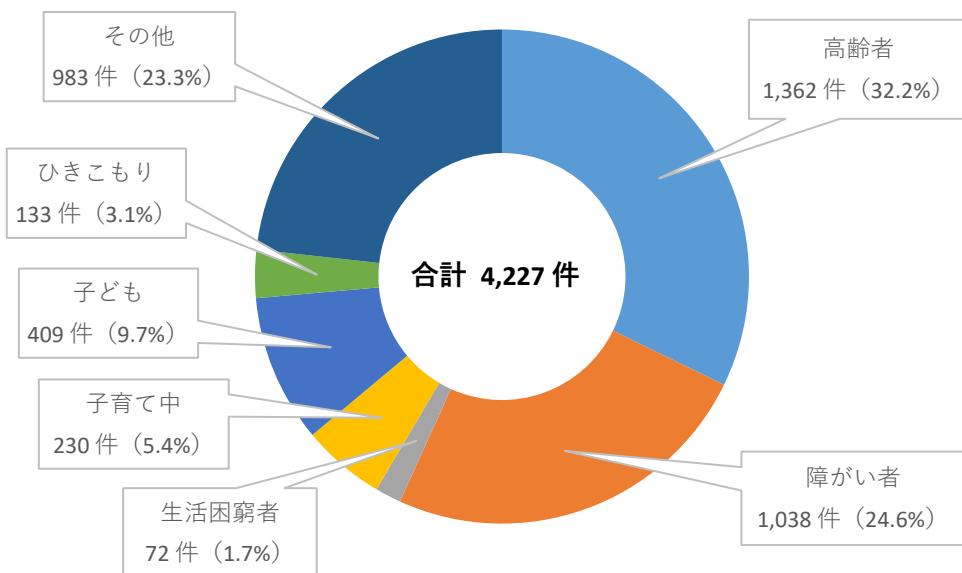
	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計	前年度	増減
電話	239	259	687	326	426	393	117	<b>2,447</b>	1,522	925
来所	74	147	153	185	207	172	46	<b>984</b>	685	299
訪問	342	292	350	403	495	474	304	<b>2,660</b>	1,393	1,267
メール	29	30	430	108	330	97	29	<b>1,053</b>	1,055	-2
LINE	30	0	39	21	16	83	0	<b>189</b>	91	98
オンライン	12	2	17	5	30	14	3	<b>83</b>	32	51
その他	1	3	2	11	7	3	0	<b>27</b>	37	-10
合計	<b>727</b>	<b>733</b>	<b>1,678</b>	<b>1,059</b>	<b>1,511</b>	<b>1,236</b>	<b>499</b>	<b>7,443</b>	4,815	2,628

対応方法内訳で一番多かったのが「訪問」の 2,660 件 (35.7%) で、二番目が「電話」の 2,447 件 (32.9%) でした。令和5年度は一番多かったのが「電話」の 1,522 件 (31.6%)、二番目が「訪問」 1,393 件 (28.9%) だったので、令和6年度は一番目と二番目を入れ替わる結果となりました。

一番目の「訪問」は、2,660 件と令和5年度の 1,393 件の倍近い 1,267 件の増加となっており、支援が必要な本人の自宅を訪問するなど、地域福祉コーディネーターのアウトリーチ機能が発揮される結果となっています。家族や友人から相談を受けるものの支援が必要な本人に会えない場合もあり、関係機関の職員と一緒に自宅へ何度も訪問するケースも増えてきています。

二番目の「電話」は、2,447 件と令和5年度の 1,522 件より 925 件の増加となりました。不安などから電話で地域福祉コーディネーター宛に1日に複数回連絡してくる方もいるため、電話の件数も増加しています。

#### (4) 支援対象者内訳



	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計	前年度	増減
高齢者	183	111	151	277	264	292	84	<b>1,362</b>	753	609
障がい者	135	169	399	57	204	46	28	<b>1,038</b>	716	322
生活困窮者	8	8	2	33	15	2	4	<b>72</b>	21	51
子育て中	121	9	82	2	4	12	0	<b>230</b>	140	90
子ども	3	39	38	247	43	34	5	<b>409</b>	287	122
ひきこもり	0	11	25	32	52	13	0	<b>133</b>	221	-88
その他	23	74	91	76	305	330	84	<b>983</b>	576	407
合計	<b>473</b>	<b>421</b>	<b>788</b>	<b>724</b>	<b>887</b>	<b>729</b>	<b>205</b>	<b>4,227</b>	2,714	1,513

支援対象者内訳は、新規相談やケース対応を行った支援対象者の属性で、複数の属性に該当する場合は、主たる相談内容に該当する属性1つを集計しています。

内訳としては「高齢者」が1,362件(32.2%)、「障がい者」が1,038件(24.6%)と多く、令和5年度は「高齢者」が753件(27.7%)、「障がい者」が716件(26.4%)とほぼ同じ件数であったが、令和6年度は「障がい者」に比べ「高齢者」の件数が多くなっています。

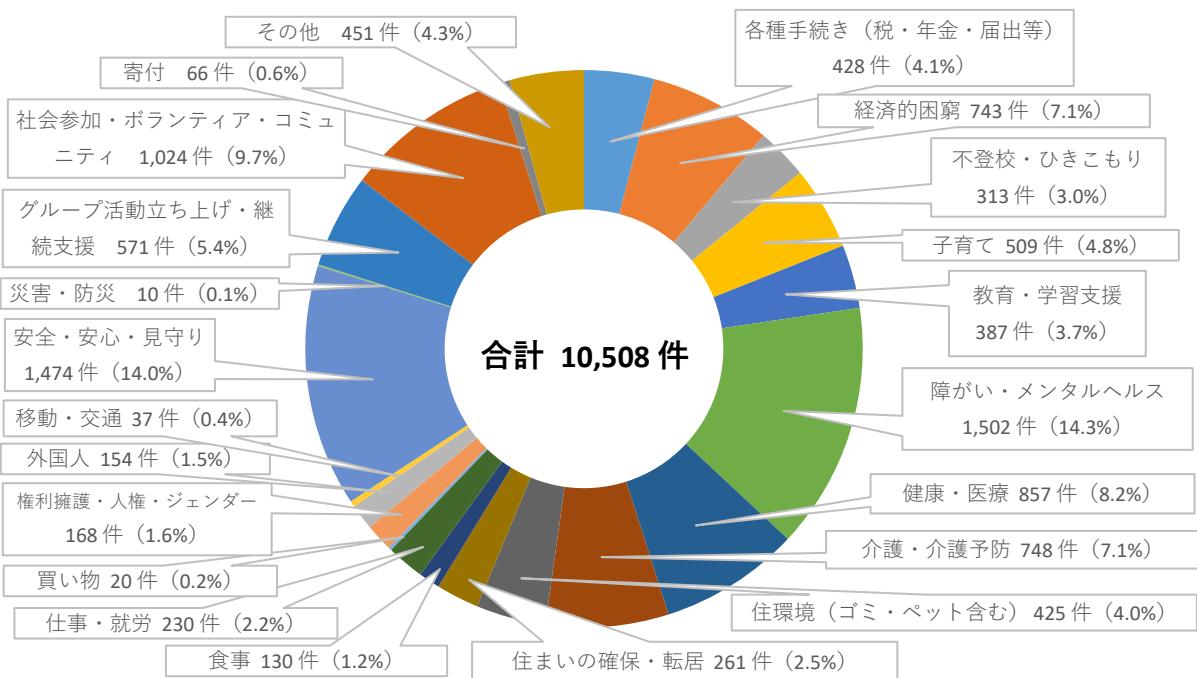
地区別に件数を比較すると新川中原地区の「障がい者」の件数が多くなっていますが、数年前から支援しているケースが複数件あり、本人から話を聞いたり関係機関と状況を共有したりとやり取りがあるため件数が多くなっています。

井の頭地区では「子育て中」の件数が多くなっていますが、子育てをしている外国出身の母親の支援が複数件あるため件数が多くなっています。

連雀地区では「子ども」の件数が多くなっていますが、子ども食堂や学習支援を行うグループの支援や、そこに参加する子どもの支援が多くありました。

「その他」は、明確な障がいの診断がない方やメンタルに不調のある方、病気に悩む若年の方などが含まれています。

## (5) 相談内容内訳



	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計	前年度	増減
各種手続き（税・年金・届出等）	107	48	162	36	57	8	10	<b>428</b>	<b>259</b>	169
経済的困窮	121	46	308	130	66	43	29	<b>743</b>	<b>526</b>	217
不登校・ひきこもり	0	28	127	58	76	24	0	<b>313</b>	<b>472</b>	-159
子育て	159	4	82	165	77	22	0	<b>509</b>	<b>270</b>	239
教育・学習支援	40	2	71	195	43	35	1	<b>387</b>	<b>194</b>	193
障がい・メンタルヘルス	172	138	642	106	241	170	33	<b>1,502</b>	<b>998</b>	504
健康・医療	138	95	122	59	293	150	0	<b>857</b>	<b>512</b>	345
介護・介護予防	149	99	46	98	110	235	11	<b>748</b>	<b>311</b>	437
住環境（ゴミ・ペット含む）	41	17	158	62	67	48	32	<b>425</b>	<b>158</b>	267
住まいの確保・転居	11	14	21	14	143	18	40	<b>261</b>	<b>159</b>	102
食事	30	14	20	49	9	7	1	<b>130</b>	<b>133</b>	-3
仕事・就労	0	13	167	0	30	17	3	<b>230</b>	<b>323</b>	-93
買い物	16	0	0	4	0	0	0	<b>20</b>	<b>22</b>	-2
権利擁護・人権・ジェンダー	2	4	131	10	20	0	1	<b>168</b>	<b>97</b>	71
外国人	112	0	1	24	0	16	1	<b>154</b>	<b>13</b>	141
移動・交通	12	5	7	0	8	5	0	<b>37</b>	<b>51</b>	-14
安全・安心・見守り	126	107	314	76	200	602	49	<b>1,474</b>	<b>704</b>	770
災害・防災	1	0	0	3	0	4	2	<b>10</b>	<b>15</b>	-5
グループ活動立ち上げ・継続支援	63	10	6	200	99	161	32	<b>571</b>	<b>479</b>	92
社会参加・ボランティア・コミュニティ	36	103	52	235	151	377	70	<b>1,024</b>	<b>614</b>	410
寄付	5	1	3	9	37	6	5	<b>66</b>	<b>99</b>	-33
その他	1	11	5	32	222	170	10	<b>451</b>	<b>189</b>	262
合計	<b>1,342</b>	<b>759</b>	<b>2,445</b>	<b>1,565</b>	<b>1,949</b>	<b>2,118</b>	<b>330</b>	<b>10,508</b>	<b>6,598</b>	<b>3,910</b>

相談内容内訳は、新規相談やケース対応を行った際の相談内容について該当するものを集計しており、1件のケースの中で複数の相談内容があるものは、該当する複数の項目を集計しています。

内訳としては、上位三番目までは令和5年度と同じになりました。一番目は「障がい・メンタルヘルス」の1,502件（14.3%）で、令和5年度の998件（15.1%）より504件増加しています。要支援者が抱える課題の要因の1つとして精神障がいやメンタルヘルスの不調が挙げられる方が多くなっています。また、相談の中には公的な制度やサービスにつながらず主たる支援者がいないケースもあり、その場合は地域福祉コーディネーターが時間をかけて傾聴する機会が増えています。

二番目は「安全・安心・見守り」の1,474件（14.0%）で、令和5年度の704件（10.7%）より770件増加しています。高齢者や障がい者、子ども、ひきこもりなど、対象の属性に関わらず生活に対する不安や安否の確認、今後の生活の中での見守りについて相談を受けるケースが多くありました。

三番目は「社会参加・ボランティア・コミュニティ」の1,024件（9.7%）で、令和5年度の614件（9.3%）より410件増加しています。地域とのつながりがない方や独居の方から「地域の活動に参加したい」、「ボランティア活動に参加したい」という相談が寄せられ、担当地区の社会資源を把握している地域福祉コーディネーターが相談者の希望に沿って活動を紹介し、参加の支援を行いました。

地区別に件数を比較すると井の頭地区では「子育て」と「外国人」の件数が多くなっていますが、支援対象者内訳でも説明したとおり、外国出身の母親の子育てに関する支援が複数件あったため、件数が多くなっています。

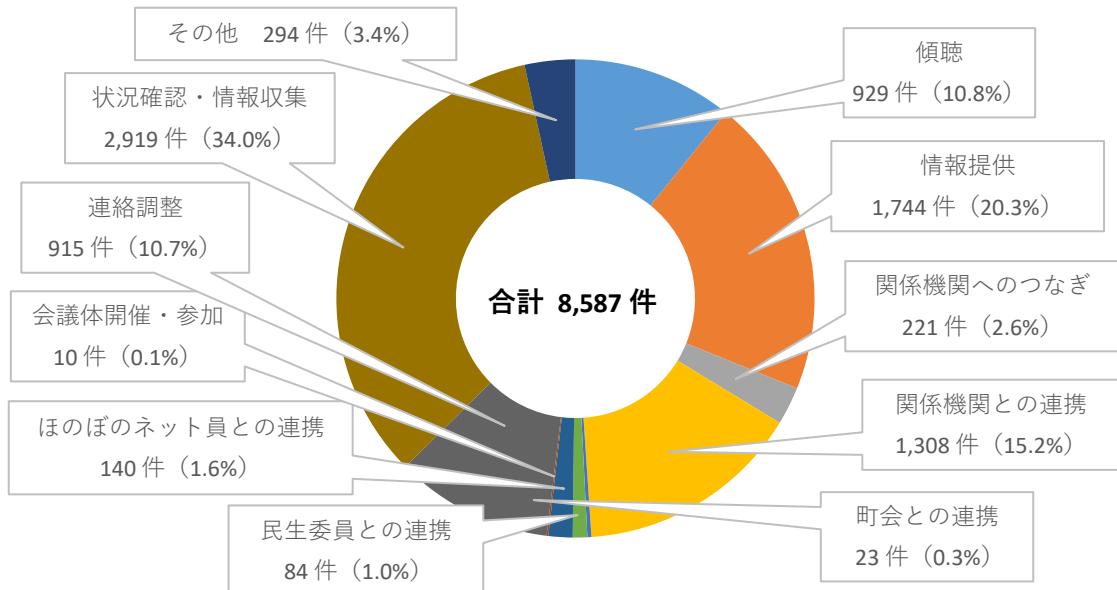
新川中原地区では「経済的困窮」「障がい・メンタルヘルス」「住環境（ゴミ・ペット含む）」「仕事・就労」「権利擁護・人権・ジェンダー」の件数が多くなっていますが、精神障がいやメンタルヘルスの不調があり仕事をしていないため収入がなく生活が苦しい状況で、なおかつ近隣住民との人間関係のトラブルや騒音トラブルがあるなど、複合的な課題を抱える方の支援が複数件あったため、件数が多くなっています。

連雀地区では「子育て」「教育・学習支援」「グループ活動立ち上げ・継続支援」の件数が多くなっていますが、連雀地区で活動している子ども食堂がいくつかあり、それらのグループが継続して活動していくよう支援したり、地域福祉コーディネーターがNPOやボランティアグループと協力して立ち上げた学習支援の場や、そこに参加する子どもに関する支援を行ったため、件数が多くなっています。

三鷹駅周辺地区では「健康・医療」の件数が多くなっていますが、地域包括支援センターと共に実施しているコミュニティ・センターでの相談会では、栄養や健康に関する講義や体操の体験会などをセットで開催しているため、高齢者の健康や医療に関する相談が多くなっています。また、高齢者以外の世代から健康や医療に関する相談も寄せられている。

西部地区では「安全・安心・見守り」の件数が多くなっていますが、独居で主たる支援者がいない認知症の高齢者やメンタルヘルスの不調がある方の安心や見守りに関する支援を行ったため、件数が多くなっています。

## (6) 対応内訳



	井の頭	東部	新川中原	連雀	三鷹駅周辺	西部	大沢	合計	前年度	増減
傾聴	108	26	171	157	112	284	71	929	360	569
情報提供	188	119	390	304	352	278	113	1,744	1,178	566
関係機関へのつなぎ	12	15	48	41	50	30	25	221	252	-31
関係機関との連携	159	142	292	211	291	165	48	1,308	925	383
町会との連携	8	3	0	1	0	0	11	23	14	9
民生・児童委員との連携	24	12	13	2	19	13	1	84	30	54
ほのぼのネット員との連携	9	7	4	32	51	36	1	140	68	72
会議体開催・参加	1	0	3	1	4	0	1	10	18	-8
連絡調整	70	78	121	312	170	121	43	915	471	444
状況確認・情報収集	448	249	489	452	607	550	124	2,919	1,640	1,279
その他	44	25	7	65	59	87	7	294	96	198
合計	1,071	676	1,538	1,578	1,715	1,564	445	8,587	5,052	3,535

新規相談やケース対応を行った際の地域福祉コーディネーターの対応の内訳としては、「状況確認・情報収集」が2,919件（34.0%）と最も多く、次いで「情報提供」が1,744件（20.3%）と、前年度と同様に2つの項目で全体の半分以上を占めており、支援を行うために支援対象者の状況を確認したり、利用できるサービスや制度等の情報を提供したりすることが多く、地域福祉コーディネーターには本人の状況等をアセスメントする力と、高齢、障がい、生活困窮、子育てなど様々な分野のサービスや制度、地域の社会資源等の情報収集のスキルが必要となります。

「関係機関との連携」は1,308件（15.2%）と三番目に多く、多分野にまたがる複合的な相談が寄せられるため、関係機関とネットワークを構築し役割分担をしながら支援していくことが必要になっています。

### 3 対応事例

#### ケース1 「集合住宅での近隣とのトラブルへの対応」

(支援経過)

集合住宅に両親と息子、娘の4人が住んでいて、周りの住人から嫌がらせを受けていると30代の息子から相談を受ける。頻回な騒音、言われのないことが書かれた手紙をドアに挟まれる、自転車を傷つけられる等があり、警察には相談している。解決の糸口を探すため母親にも話を聞き、同じ団地に住むほのぼのネット員からも聞き取りを行う。

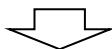


保健所の保健師や市障がい者支援課のアウトリーチの事業につなげるとともに、一緒に警察にも相談に行き信頼関係を築きながら必要な情報を提供。家族だけで悩んでいたが、地域福祉コーディネーターに話ができることで母親も精神的に違うと話される。息子への必要な支援を探りながら継続して対応している。

#### ケース2 「80代からの地域活動への参加の支援」

(支援経過)

80代女性がコミュニティ・センターの相談会に来所。愛の手帳を所持する60代息子が定職に就いていないことや母親の年金に頼った生活をしているため、母親亡き後の生活に不安があると相談を受ける。

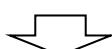


母親と面談を行う中で息子との関係性が悪いことがわかり、その原因是母親の過度な干渉が影響していることが伺えた。母親が高齢であることや世帯として生活困窮の課題を抱えている可能性があるため、地域包括支援センターにも支援をしてもらいながら少しずつ息子との関わりを持つことを検討。また、母親が他者と関わる機会が少なかったため、母親の地域活動への参加の支援を行っていくことになる。

#### ケース3 「最初に受けた困りごとから別の相談につながる」

(支援経過)

80代独居の女性から住んでいる住宅の書類の緊急連絡先に記入できる人がいないと相談を受ける。理由があって数十年前に家を出たため、夫や子どもとは音信不通で自身の家族とも連絡がとれない。最近まで友人を緊急連絡先としていたが、他界や施設入所が理由で書けなくなってしまった。夫の生存確認をして亡くなったら子どもたちには自分の財産を渡したいと思っているとのこと。

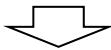


権利擁護センターの専門相談を紹介し弁護士へ相談。戸籍謄本で家族の状況を確認することや子どもたちには公正証書遺言を作成するようアドバイスを受け、権利擁護センターと地域包括支援センターと連携しながら継続して支援を行っていくことになる。

#### ケース4 「精神疾患のある男性の日常的なサポート」

(支援経過)

60代前半の独居の男性の入浴について地域包括支援センターより相談を受ける。精神疾患があり専門職の補助人が就いていることから、補助人に本人の状況について聞き取りを実施。



福祉サービスの利用はなく、最近は認知機能の低下が見られるところで、補助人と本人宅を訪問。室内は散らかっていて服薬もできていない様子があったため、主治医や関係機関と連携しながら、補助人と本人に必要なサービスの利用に向けて調整していくことになる。

#### ケース5 「生活費についての相談」

(支援経過)

80代女性から生活費について相談を受ける。80代夫婦と50代娘の3人世帯。都営住宅への転居を機に娘と離れて暮らすことになり、夫婦のみの収入では生活が厳しいとのことで相談を受ける。



生活・就労支援窓口へ相談し自宅への訪問に同行してもらい、生活保護も視野に入れながら支援方法を検討。また、エアコンの購入も含めた転居費用の捻出も難しいことから、社協の貸付を紹介し相談に同行。市内の他地区に転居となるため担当地区の地域福祉コーディネーターに引き継ぐ予定で、今後は転居先の地区的地域活動を紹介していく予定。

#### ケース6 「不登校の子どもがいる保護者の居場所」

(支援経過)

不登校の子どもやその親のために活動を立ち上げている保護者のグループが増えているが、横のつながりがないので他のグループがどのような活動をしているか情報が欲しいという声が寄せられた。



それぞれのグループがどのような活動をしているのか情報交換したり、それぞれの課題を共有できる場として、6月と12月に「保護者ミーティング」を開催。また、保護者ミーティングのメンバーの協力を得て、市内で活動しているグループを一覧にまとめた「保護者や子どもの居場所（活動）案内」を作成し、市立小中学校や市役所、公共施設等へ周知の協力を依頼。令和7年度も「保護者ミーティング」は開催し、「保護者や子どもの居場所（活動）案内」も更新する予定。

## 4 会議体等への参加

地域福祉コーディネーターの取り組みを周知し理解してもらうとともに、課題を解決する際の連携がスムーズに行えるよう、三鷹市や関係機関が主催・参加する会議体等へ参加しました。

### 【全市】

- ・三鷹市重層的支援体制推進会議
- ・三鷹市重層的支援体制支援会議
- ・生活支援コーディネーター実務担当者会議
- ・三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議
- ・みたか子育て支援団体コミュニティ
- ・ホームスタート・みたかアドバイザリー会議
- ・三鷹ひきこもり支援者連絡会
- ・三鷹ひきこもり・不登校合同相談会
- ・みたか親の会（ひきこもり）
- ・三鷹市精神保健福祉地域ネットワーク協議会
- ・三鷹市障がい者地域自立支援協議会事例検討会
- ・三鷹市障害福祉サービス事業者事例検討会
- ・三鷹市見守りネットワーク事業連絡協議会
- ・三鷹市福祉 Labo どんぐり山プロジェクトアドバイザー会議
- ・三鷹市居住支援協議会設立準備会
- ・三鷹市社会福祉法人地域公益活動ネットワーク
- ・地域支援ネットワークプロジェクト
- ・ほのぼのネット正副班長会議
- ・北多摩南部ブロック社協地域福祉コーディネーター担当者会議

### 【各地区】

- ・ほのぼのネット定例会（各地区）
- ・地域ケアネットワーク（各地区）
- ・コミュニティ・スクール委員会（おおさわ学園、三鷹中央学園）
- ・多世代交流センターパートナー連絡会（東・西多世代交流センター）
- ・高齢者地域支援連絡会（各地区）
- ・ケア専門職交流会（各地区）
- ・自主防災組織主催の防災訓練（各地区）
- ・UR 団地情報交換会（三鷹台団地、牟礼団地）
- ・学童保育所地域連絡会（社協が運営する学童保育所）



## 5 研修体制

地域福祉コーディネーターとして必要なスキルを向上させるため、武藏野大学人間科学部社会福祉学科の渡辺裕一教授による研修を年4回実施し、地域福祉コーディネーターに必要な個別支援や地域の課題を解決するためのネットワークづくり、地域づくり等に必要なソーシャルワークの技法等について学びました。

また、東京都社会福祉協議会が主催する「地域福祉コーディネーター養成研修」（「基礎編」、「実践編」）、全国社会福祉協議会が主催する「地域福祉コーディネーター リーダー研修会」に参加し、地域福祉コーディネーターに必要なスキルの向上に取り組みました。

## 6 広報

地域福祉コーディネーターを広く市民へ周知するためチラシを作成し、コミュニティ・センターや市政窓口などの行政機関の窓口で配架するとともに、日頃から地域の見守り活動等を行っているほのぼのネット員や民生・児童委員、町会・自治会、市民が参加している自主グループやイベント等で配布しました。令和6年度から各地区に1名の地域福祉コーディネーターが配置されたため、地区担当の職員の似顔絵を使った親しみのあるチラシを作成しました。

その他、三鷹市が発行している「広報みたか」や社会福祉協議会が発行している全戸配布の「みたか社協だより」、社会福祉協議会のホームページ・Facebook、各地区の住民協議会が発行する広報誌に地域福祉コーディネーターの記事を掲載し周知しました。「広報みたか」10月20号では地域福祉コーディネーターの紹介記事を掲載しています。



地域福祉コーディネーター  
のチラシ  
(上が表面、右が裏面)



広報みたか (10月20日号)

## 7 まとめ

令和6年度は地域福祉コーディネーターを新たに3名配置し7名体制となり、各地区に1名の地域福祉コーディネーターを配置する体制が整いました。地域福祉コーディネーターは、日頃から様々な分野で活動している関係機関とネットワークを構築するとともに、担当地区の中で市民が参加するグループの活動やイベントに参加して顔の見える関係づくりに取り組んでおり、困ったことがあった時に気軽に声を掛けて相談できる敷居の低い相談先となれるよう活動しています。相談は市民の皆さんから直接地域福祉コーディネーターへ寄せられるだけでなく、地域の方から相談を受けたり見守り活動をしている民生・児童委員やほのぼのネット員から地域福祉コーディネーターへつないでもらう機会も多く、令和6年度は民生・児童委員やほのぼのネット員に地域福祉コーディネーターを理解してもらえるよう、地域福祉コーディネーターが対応している事例を交えての事業説明や協力のお願いを行いました。その結果、地域福祉コーディネーターの増員もあり、新規相談件数は493件と令和5年度の319件から174件の増加となりました。

新規相談やケース対応を行った際の相談内容内訳では、「障がい・メンタルヘルス」が1,502件と最も多く、令和5年度の998件から504件増加しました。昨年度に引き続き、精神障がいや発達障がい、メンタルヘルスに不調のある方からの相談は多く、支援窓口につながっていないケースもあり、地域福祉コーディネーターが定期的に訪問して状況を確認したり、電話が頻回に掛かってくるケースもあります。本人の話を傾聴しながら信頼関係を築き、本人の意向を確認して必要な制度やサービスにつながるよう時間をかけて支援をしています。また、「安全・安心・見守り」が1,474件と二番目に多く、令和5年度の704件から770件増加しました。独居の高齢者やメンタルヘルスに不調のある方から一人で生活していることの不安について相談を受け、地域の活動を紹介し参加の支援をする機会が多くありました。今後も、地域で孤立することなく地域との関わりが持て、お互いが気に掛け支え合える地域を目指して支援していきます。

市民の自宅に近い身近な場所で困りごとや悩みを相談できる機会として、コミュニティ・センターを会場に地域福祉コーディネーターの相談会を開催していますが、令和6年度は年間を通して全地区で月1回の開催を実施し、7地区で合計63件の相談がありました。コミュニティ・センターは市民の皆さんの活動拠点となっており、令和7年度も身近な場所で相談できる機会として開催していきます。

令和7年度は地域福祉コーディネーターが各地区1名体制となって2年目を迎えます。日頃の地域との関係づくりの積み重ねが地域福祉コーディネーターへの相談につながるとともに、課題解決の際の糸口にもなります。地域で困っている方が減り誰もが安心して三鷹のまちで暮らし続けていけるよう、引き続き「地域共生社会」の実現に向けて取り組んでいきます。



【発行】令和7年4月

社会福祉法人 三鷹市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉推進係

三鷹市上連雀 8-3-10 三鷹市上連雀分庁舎 1 階

TEL : 0422-76-1271 FAX : 0422-76-1273